



巻頭言

【安曇野市議会を真の議会に！】

議員任期 4 年の折り返しで、議長、副議長を始め、委員会構成が変わりました。私は常任委員会の福祉教育委員会（福教委）の委員長、そして議会改革委員会（改革委）の委員長の 2 つの委員長職に就きました。任期前半は途中で無所属議員となったことで、議会先例により議会運営委員会や改革委を辞職せざるを得なくなったわけですが、後半 2 年は 2 つの委員長職として以下を組みます。

まず改革委。12 月定例会では、9 月定例会で市民から出されていて継続審査になっていた「議員平等の原則に基づく安曇野市議会の運営と議会内人事の平等を求める陳情書」が議員全員の賛成により採択されました。この採択を受けて、市議会になって 18 年、会派優先の委員会人事の根拠となっていた先例の見直しを改革委で進めていきます。

次に福教委。安曇野市議会では 3 つの常任委員会ごとにテーマを決めて、行政への政策提言を行う仕組みができています。福教委でも、最初に各委員の関心あるテーマを出し合い意見交換をしました。最終的に「子どもの権利条例をつくる」ということになりました。みなさん、このことの意味分かりますか？「条例をつくる」んです。



ぼうざぶろう 増田望三郎の 市議活動だより



前述の通り、本市議会は年に 1 度政策提言を行政に対して行っていますが、行政にああしてほしい、こうしてほしいという要望が主でした。今回は単なる要望提案ではなく、子どもに関しての市の政策・施策の根拠となる条例をつくらうという提案になるのです。更に可能ならば、「行政が作るように」というところから一步踏み込んで、議会発議の条例制定を目指そうという話もしています。行政側から出てくるのを待つのではなく、議会リードで安曇野市の子どものための条例をつくらうということです。簡単なチャレンジではないですが、そこをやりたいという委員の発言もあり、とても頼もしく感じています。後半 2 年、一議員として頑張るとともに、2 つの委員会の委員長として、真の議会になるよう委員のみなさんと一緒に頑張ります。

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政や議会が市民にとって身近になるために、虹（＝Rainbow レインボウ）の架け橋となるような議員活動をしていきます。望三郎の活動はブログやフェイスブック、インスタでもどうぞ。



●プロフィール
大分県出身 54 歳。東京経由で安曇野に移住し 20 年目に。三郷小倉に妻と子ども、妻の両親の 3 世代で暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿（ちきゅうやど）』を経営。安曇野市議 3 期目。好きな言葉は『出会い、共感、展開』

三郷小ドリームチームの取り組み

三郷小学校では、地域の人たちが学習支援などでサポートに入るドリームチームという取り組みが始まっています。1 年生のどんぐりゴマづくりや 2 年生の算数の時間に私も参加させてもらいました。30 人の子どもたちを先生 1 人で授業を切り盛りするのは大変です。ドリームチームがいることで、小グループで子ども一人一人を支援ができます。子どもたちの授業に加わって支援するのは私も初めてのこと。最初はうまく教えられるのか、どうやって教えればいいのかと思いましたが、「答えを教える」のではなく、「一緒に考える」という視点をもって臨みました。安曇野の多くの子どもたちが通う公立学校が、子どもたちにとって学ぶのが楽しい場になるために、ドリームチームのような取り組みが必要だと思いました。専属の先生も配置されており、次年度もこの活動を注目していきたいと思います。

みんなでカフェトーク

カフェでおしゃべりするようなカジュアルな雰囲気、議員の私たちと話しませんか。私も背広とネクタイを外し、市民のみなさんとざっくばらんにお話ししたいです。お子さん連れでどうぞ。

参加予定議員：小林純子、林孝彦、橋本裕二、増井裕壽、増田望三郎他

日時：2 月 10 日（土）午前 10 時～12 時

場所：穂高研成ホール

サポーターからの応援メッセージ 38



津村孝夫さん

（三郷小倉／農業）

望さんも私も安曇野へ移住して 20 年が経ちました。この 20 年、何を大事にしてきて、何を次代に伝えようとしているか。移住して間もなく起こった、三郷小倉に工場を建てた廃棄物処理業者の問題。裁判など様々な動きがありましたが、間近に暮らす住民としては、予断を許さない状況が続いています。

これに対し、望さんは常に住民の立場で考え、行動してきました。そのために実によく勉強してきました。議員としては、それ以外の沢山の問題も考えなければならない。本当によく勉強している。すごいなあ、そのやる気はどこから？と思います。

想像するに、彼が人と人とが会える場をつくりたいと経営する「安曇野地球宿」という場づくりは、まさに議員としての仕事に重なります。夢も問題も、人と人とが意見を交わして初めて公のものになり、次へと動き出します。真摯に意見を聴く姿勢が求められます。書いたり言ったりすることは簡単ですが、実行するのはとても大変。そこを努力してやろうとする気持ちが感じられる人。それが応援したくなる人「望さん」です。自らが未熟であることを素直に認められることが、議員として仕事をして欲しくなる要素でしょう。（議員じゃなくても大事ですけど！（笑））

12月定例会の一般質問

テーマ「安曇野の水を守る農業を～有機農業の社会潮流、安曇野市でどう取り組むか～」

【解説】

安曇野の宝は豊かできれいな水です。その水を次代に残すために、農業のあり方を見直す必要があります。農業で使用される化学肥料や畜産由来の粗悪な堆肥等の窒素成分が、水質に影響を及ぼす可能性があるからです。（※行政の地下水の水質調査や資料を基に判断）
安曇野の水を守る持続可能な農業へと転換するための端緒として、子どもたちが食べる学校給食のお米を農薬や化学肥料を使わない有機米にしようと提案しました。昨年も同様の質問をし、4年度は年1回だった有機米が今年度は年3回になりました。更にそれを増やそうという提案です。市が公共調達をすることで、米農家も安心して付加価値の高いお米を作ることができ、収益は向上し、持続可能な農業への移行が進みます。慣行農業を否定するつもりはありませんが、社会はオーガニック（有機）へと向っています。今回は粗悪な有機堆肥物にも窒素成分が残る可能性があることを指摘し、市の農業のあり方を見直していく議論を行いました。

望市議 今後社会は有機農業やオーガニックへシフトしていくとお考えか。

市長 国内での自然由来の肥料の使用拡大が進むのでは。だが変えていくには相当な時間がかかるだろう。現在の農業者がシフトできるかが大きな問題。生産方法を選択するのは生産者。労力に見合った流通価格が維持できるか。市は積極的な対応をしたい。

望市議 SDGsによる持続可能な農業とは、本市の場合、先人から受け継がれてきた

豊かできれいな水を次の時代へとつないでいく水を守る農業だと考える。化学肥料だけでなく、十分な時間をかけずに作った粗悪な畜産堆肥もまた硝酸態窒素を含み、水質汚染の原因になっているのではないか。

市長 有機肥料を含む畜産堆肥や化学肥料の使用は、施肥基準に基づく適正な堆肥を行うよう農業者、JAと共に考えていく。畜産農家に対しても、熟成した堆肥の散布を心がけるよう指導を継続していく。

望市議 有機農業を進める端緒として、学校給食に有機米を取り入れる提案をした。今年度は年3回の有機米を予算化している。更に増やすために、費用増加分の財源として、ふるさと納税寄附金を使えないか。

部長 ふるさと寄附金の活用は可能である。

望市議 安曇野のお米は通常米でももちろん美味しく安心安全だ。では、なぜあえて有機米を出すのか。この取り組みの真価は。

教育長 児童生徒が環境負荷の少ない農業、安曇野の農業についてもっと関心を持つこと。そういう中で農家の方々が、日々努力と工夫を重ねて、熱い思いを持って農業に励んでいる事実を知ることが大切だ。

市長 有機米がどういう作り方をしているのか。その味をどう思うかといった投げかけが必要だ。トータルの意味でのPRをきちんとやらないと、せっかく年3回に増やした有機米の提供がそれだけで終わってしまう。そこはこれからしっかり考えていく。

望市議 既存の慣行農法の農家の方を否定せずに、持続可能な安曇野の水を守る農業へと政策誘導するには。

市長 有機農法と慣行農法との間で溝ができてはいけない。性急な方法でなく、新たに就農される方に対し、考え方の伝授から始めていかなければいけない。

風越学園を視察

県主催の「信州学び円卓会議 県民意見交換会」の参加するため軽井沢町の風越学園を訪れました。県の会議は、学校教育を変えなければならないという阿部県知事の強い思いで始まっており、定期的な会議の間に県民との意見交換会が行われています。今回の意見交換会は学園の子どもたちが実行委員会を作り、この会議運営も学びの機会になっていました。次第を読むだけの運営でなく、自分自身の体験や考え、気づきを織り交ぜながらのファシリテーションに、子どもたちがここまで語れるのかと驚きました。

「私はこう思うんです。」「そうやってもらえたら、私は嬉しいです。」と、主体と客体とがしっかり分けられている発言、こう仕向けようという圧もなく、なんてスッキリした子どもたちだろうと思いました。人への向き合い方、テーマへの取り組み方、主体的に考え、対話を通じてアウトプットし合い、認め合っている。まさに学習指導要領「主体的で対話的な深い学び」そのものでした。こういった学びができる子どもをまん中においた教育の土壌がこの学校にある。

では安曇野市の公立校ではどんなふうにするのか。それはすぐには分かりません。ただ、こういった子どもファーストの学校を、教育長、市長、校長、先生たちに触れてもらい、豊かな学校像を描いてもらいたい。そう強く思いました。



軽井沢町にある私立風越学園の施設外観

望三郎市議が行く!

第39話

『タブレット端末導入!』

出演 ☆ 望市議 にじとピース

